仰臥漫録

正岡子規著

子規が死の前年の明治34年9月から死の直前まで，俳句・水彩画等を交えて赤裸々に語った稀有な病牀日録。現世への野心と快楽の逞しい夢から失意失望の呻吟，絶叫，号泣に至る人間性情のあらゆる振幅を畳み込んだエッセイであり，命旦夕に迫る子規(1867－1902)の心境が何の誇張も虚飾もなくうかがわれて，深い感動に誘われる。(解説＝阿部 昭)

緑 13-5
岩波文庫

仰臥漫録

1927年7月10日　第1刷　発行
1983年11月16日　第15刷改版発行 ©
1989年8月15日　第25刷　発行

定価360円
(本体350円)

著者　正岡子規

発行者　緑川亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
発行所　株式会社 岩波書店
電話 03-265-4111
振替 東京6-26240

印刷・三陽社　製本・永井製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします　Printed in Japan
ISBN4-00-310135-9

岩波文庫

仰臥漫録

正岡子規著

岩波書店

目次

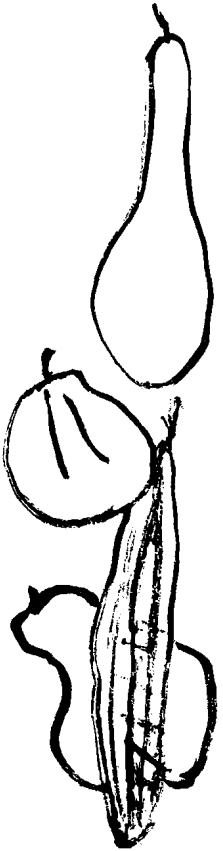
仰臥漫録……五
仰臥漫録二……一〇九
解説……（阿部昭）……一九一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

仰耿湯孫

明治卅四年九月二日　　雨　蒸暑

庭前の景は棚に取付てぶら下りたるもの
夕顔二、三本瓢二、三本糸瓜四、五本夕顔
とも瓢ともつかぬ巾着形の者四つ五つ



女郎花真盛雞頭尺より尺四、五寸のもの二十本許

夕顔の実をふくべとは昔かな
夕貝も糸瓜も同し棚子同士
夕貝の棚に糸瓜も下りけり
鄙の宿夕貝汁を食はされし

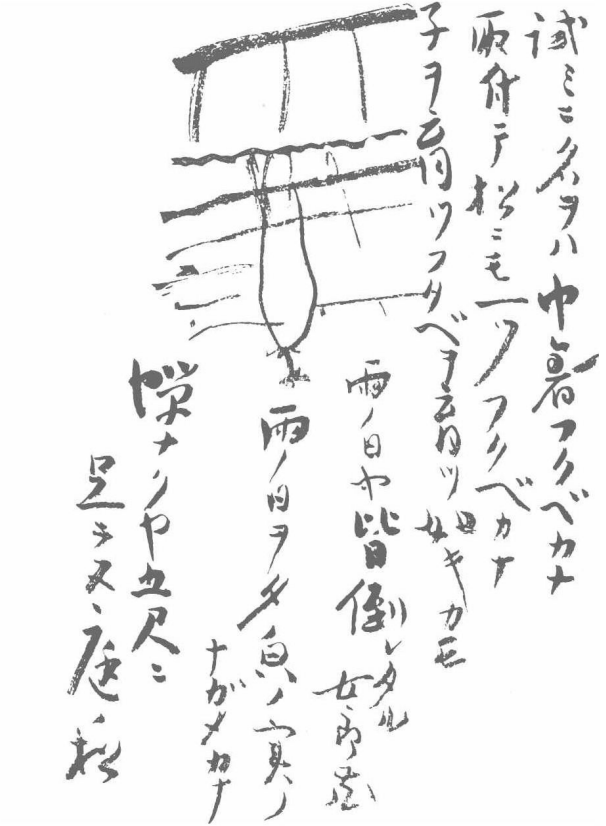
右八月廿六日俳談会席上作

夕顔の太り過ぎたり秋の風
棚一つ夕貝ふくべへちまなんど

病床のながめ

棚の糸瓜思ふ処へぶら下る
試みに名をは巾着ふくべかな
取付て松にも一つふくべかな
子を育つふくべを育つ如きかも
雨の日や皆倒れたる女郎花
雨の日を夕貝の実のながめかな
蟬なくや五尺に足らぬ庭の松

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong


試ミニ名ヲハ中喜フクベカナ
兩舟デ杉ニモ一ノフクベカナ
子ヲ育ツフクベヲ育ツ母キカモ
兩ノ日ヤ皆倒レタル
兩ノ日ヲタ魚ハ真ノ
ナガメカナ
悔ナシヤ五尺ニ
足ラヌ底ノ秋

糸瓜ぶらり夕顔だらり秋の風
病間に糸瓜の句など作りける
野分近く夕顔の実の太り哉
湿気多く汗ばむ日なり秋の蠅
雞頭のまだいとけなき野分かな
秋もはや塩煎餅に渋茶哉

朝　粥四椀、はぜの佃煮、梅干砂糖つけ
昼　粥四椀、鰹のさしみ一人前、南瓜一皿、佃煮
夕　奈良茶飯四碗、なまり節煮て少し生にても　茄子一皿
この頃食ひ過ぎて食後いつも吐きかへす
二時過牛乳一合ココア交て
煎餅菓子パンなど十個ばかり
昼飯後梨二つ
夕飯後梨一つ

服薬はクレオソート昼飯晩飯後各三粒（二号カフセル）

水薬　健胃剤

今日夕方大食のためにや例の左下腹痛くてたまらず　暫にして屁出で筋ゆるむ

松山木屋町法界寺の　鰌　施餓鬼とは路端に鰌汁商ふ者出るなりと　母なども幼き時祖父どのにつれられ弁当持て往てその川端にて食はれたりと　尤旧暦廿六日頃の闇の夜の事なりといふ

餓鬼も食へ闇の夜中の鰌汁

午後八時腹の筋痛みてたまらず鎮痛剤を呑む　薬いまだ利かぬ内筋ややゆるむ

母も妹も我枕元にて裁縫なども　三人にて松山の話殊に長町の店家の沿革話いと面白かりき

十時半頃蚊帳を釣り寝につかんとす　呼吸苦しく心臓鼓動強く眠られず　煩悶を極む　心気やや静まる　頭脳苦しくなる　明方少し眠る

九月三日　朝雨　午前十一時頃晴　その後陰晴不定

朝繃帯取換　十時頃また便通

陸氏只今帰られし由

昼前陸氏来る　天津肋骨よりの土産

　　払子一本　俗画二枚　板画(けしき)一枚

陸氏は支那の王宮の規模の大なるに驚きたりといふ

朝　ぬく飯二椀　佃煮　梅干

　　牛乳五勺　ココア交　菓子パン数個

昼　粥三椀　鰹のさしみに蠅の卵あり　それがため半分ほどくふ、晩飯のさいに買置たるわらさをさしみにつくる　旨くなし　食はず

　　味噌汁一椀

　　煎餅三枚　氷レモン一杯呑む

夕　粥二椀　わらさ煮　旨からず

　　三度豆　芋二、三　鮓少し　糸蒟蒻

　　総て旨からず　佃煮にてくふ　梨一つ

陸氏内より朝鮮の写真数十枚持たせおこす

午後母は車にて芝南佐久間町の池内氏を訪ふ　政夫氏のくやみなり

飄亭来る

今日は昨夜来のつづきにて何となく苦し

歯齦の膿を押出すに昼夜絶えず出る　昨日も今日も同じ

町川にぼら釣る人や秋の風

九月四日　朝曇　後晴

昨夜はよく眠る

新聞『日本』『二六』『京華』『大阪毎日』を読む例の如し　『海南新聞』は前日の分翌日の夕刻に届くを例とす

朝　雑炊三椀　佃煮　梅干

牛乳一合　ココア入　菓子パン二個

昼　鰹のさしみ　粥三椀　みそ汁　佃煮　梨二つ

葡萄酒一杯（これは食時の例なり　前日日記にぬかす）

間食　芋坂団子を買来らしむ（これに付悶着あり）

あん付三本焼一本を食ふ　麦湯一杯

塩煎餅三枚　茶一碗

晩　粥三椀　なまり節　キャベツのひたし物

梨一つ

午前種竹山人来る　菖蒲田原釜なこそなどの海水浴に游んで帰ると　原釜にては松魚一尾八銭高きとき十三銭

家庭の快楽といふことといくらいふても分らず

物思ふ窓にぶらりと糸瓜哉

肋骨の贈り来りし美人画は羅に肉の透きたる処にて裸体画の如し

裸体画の鏡に映る朝の秋

美女立てり秋海棠の如きかな

九月五日　雨　夕方遠雷

朝　粥三椀　佃煮　瓜の漬物

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong